

## 試験研究（中間）評価整理表

試験研究機関名 水産試験場

所管グループ 研究開発グループ

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	4 生態系や環境に配慮した技術開発	資源の持続的利用技術の開発	秋サケ来遊資源動向調査	適正な漁獲管理に資するために、サケ資源の実態と動向を把握し、回帰尾数予測の精度向上を目指し、新たな来遊予測手法の開発を行う。	放流後の沿岸水温や岩手県由来遊数（8～9月）など回帰率に影響を与える複数の要因を解明した。今後は回帰魚の年齢組成調査の効率化、高精度化により来遊予測の精度向上を図る。	16	19	B	次年度の課題である回帰魚の年齢組成調査の手法改良により、当初目的が達成されると期待できることから、来年度も研究を継続するべきである。	意義の大きい研究で、来年度も継続実施すべきであると考えられる。
2	7 高度な経営管理・情報処理システムの開発	地域の農林水産業を支援する高度解析・予報技術の開発	コウナゴ漁況予測の手法開発	コウナゴ漁況の予測手法（漁獲調査、魚群探知機等による）を開発し、開発した手法から得られた情報を提供することで、船びき網漁業者の効率的な操業を支援する。	耳石日周輪の解析からコウナゴのふ化時期（1月中旬～3月上旬）を、中層トロール調査の結果からふ化から漁獲加入までの成長を明らかにした。今後は年別の漁獲調査、魚群調査（魚群探知機、水温等）データを蓄積し、漁況予測手法を開発する。	17	19	C	研究ニーズも高く、調査・解析手法も確立していることから、当初目的達成のため、更に2カ年研究期間を延長する必要がある。	漁獲の年次間変動の大きさは特有のもので評価は妥当な線。今後の研究展開は期待できる。